

**8月に今年度2回目となる定例ミーティングを開催！
網本選手によるアスリートプレゼンや、
石塚アドバイザー、センコーグループホールディングス
坂田氏による特別講演を実施。**



Athleat presentation

日本車いすバスケット 日本代表強化選手



網本 麻里 様

株式会社 BEAMS 所属



アスリートプレゼンテーション
全編動画はこちらからご視聴ください



日本代表強化指定選手として練習に励む

今日はよろしくお願いします。本日は私の経歴や、これからやりたいことなどについてご紹介させていただきたいと思います。実は先日皇后杯と呼ばれる、女子の全国大会があったんですけど、その皇后杯で私が所属しているカクテルが見事8大会連続で優勝することができました。チームのみんなや応援に来ていただいた皆さんのおかげで、MVPを獲得することもできたので私自身もこれからバスケットをまだ続けていく中で自信にしたいなと思いました。また来年9連覇、再来年10連覇に向けて、もっともっとチームとしても個人としても成長していきたいなと思えるような大会になりました。

私普段は歩いてるんですけど、右足の足首に障がいがあって、右足が内反足という骨の病気で生まれてきました。小さいときに手術をして、普段は歩けるように生活できるようになってるんですけど、右足が細かったり足のサイズも左右で2センチ違います。

日常生活では車いすはいらないんですが、バスケットをするときだけ車椅子に乗って競技しています。また競技では、2006年から日本代表に選んでいただいて、現在は日本代表強化指定選手として練習に励んでいます。



車いすバスケットってどんなスポーツ？

私がやってる車いすバスケットってそもそもどういうものかって言ったら、普通のバスケットとあまり変わりがありません。リングの高さとか、コートの方広さとか、ボールの大きさとかも全部普通のバスケットと一緒にです。パラリンピック車いすバスケットはパラリンピックの花形スポーツって呼ばれてるんですけど、私が出場した皇后杯天皇杯など日本国内の大会全てにおいて、健常者と呼ばれる障がいを持ってない人も一緒に大会に出場することができます。そういう意味でも、誰もが楽しめるスポーツだし、シニアの大会も開催されていて、一番上の方は77歳の方も試合に出て、車いすバスケットをやられていました。

車いすバスケットの魅力

私の個人的に思っている車いすバスケットの魅力っていうのは、まずは会場に来て見ていただき、すごいなって思ってもらって、それを実際に体験していただく。そしたら私達が簡単にやってそうなのが、意外にできなかったりとか、思うようにそもそも車いすを動かさなかったりとか、座ってぐらいならシュート届くやろみたいなのが届かなかったりとか、を体験していただいて、もう1回試合を見ていただく。見ていただいたら、こんなすごいことやってたんだみたいなを感じてもらえると思います。

車いすバスケの課題①競技人口の伸び悩み

冒頭で誰もが出来るスポーツと言いましたが、障害に応じて持ち点が与えられていて、障がいの軽い選手ばかりでは試合に出れないんです。なので障がいの重い人から障害の軽い人までみんながまんべんなく出ないと試合には出られないルールがあるんです。コロナの影響で、2年3年バスケやってなかったから、もう本当に運動機能的に落ちてしまって、そのままバスケやらないですみたいな人もいたりとかそういう現状で競技人口は伸び悩んでいます。私も始めたときは15歳とかだったんですけど、今もう34歳なので、平均年齢も上がる。となると高齢化も進みます。

車いすバスケの課題②競技場所の確保

私達が使いたいって思っている体育館も実際限られてるんで、一般の体育館行って予約しようとしても、車椅子の人はお断りさせてもらってますとか、体育館に傷つくんで貸し出しできません、ということを言われたりとか、やっぱり利用できる施設が少ないんで、実際地域・地方に行きたい活動したいって思ってる人が自分の家から車いすバスケをやってる体育館まで片道3時間かかったりとか、初心者の人が始めるには結構ハードルが高かったりという現状もあります。その反面、障がい者スポーツセンターって、障がい者の人しか使えないんで、健常者の人が車いすバスケやりたいって思って、その体育館に行こうって思っても、障がいを持ってる人しか使えないんで、そこは使えないんですよ。そういうちょっとした壁が出てきてるんで、競技人口とかも減っていく一方だしなかなか伸びないっていう感じなのかなって思っています。

障がい者(クラブチームに所属している人)	障がい者施設を利用	一般の施設は予約いっぱい、抽選でなかなか取れない
健常者	一般の施設を利用または障がい者と一緒に練習	障がい者施設は利用出来ない
障がい者と健常者、初心者	一緒にクラブチームの練習に参加すると利用可能	それぞれのレベルの差が大きい

車いすバスケの課題③車椅子が高額

初心者の人たちに特に当てはまるのが、車椅子が高額ということ。誰でも乗れるオーソドックスな車椅子でも、最低30万円からします。私が乗ってる車いすはオーダーメイドで特注なので、資材自体の価格も上がってるっていうのもあって、80万円以上します。また私が使ってるベルトも1本1万ぐらい。タイヤも1セットで15万ぐらいします。タイヤだけでもスペアタイヤなど合わせて30万円以上します。これが車椅子バスケの現状で、やっぱり本当に車いすバスケを頑張ってる人という人は、かけられるお金かもしれないですけど、学生や子どもたちが簡単に始めることが難しかったりとか、親御さんの理解が必要だったりとか、そういうところもちょっと気軽には始めにくいところかなと思ってます。

私の夢

すごい無謀かもしれないですけど私の将来の夢は「車いすバスケットコートを立てたい。」という夢です。それは誰もが使えて、欲を言えばジムとカフェと一緒にやりたいて思っていて、これは私が全部やりたいたいんですけど、自分のやりたいときにバスケができて、自分の行きたいときにカフェとジムに行けるっていうふうにやりたいなと思っています。カフェとジムをやりたいて思った理由の一つとして、スクールをやってる間に、子供さんを連れてきた親御さんにも、暇つぶしじゃないですけど、リフレッシュしてもらったり、お喋りしたい人はカフェに行ってもらって、筋トレしたいって思っ人はジムに行ってもらいたいなこともやりたいなと思っています。もちろんジムやカフェだけでも大歓迎っていう風に思ってるんで、そういうのを作りたいなっていうのが、一番大きな夢になります。



車いすバスケの普及活動に力を入れる

あとは、私は現在も選手としてやっていますが、車いすバスケの普及活動とか、そういう活動もやりたいなと思っています。バスケのスクールを、障がい者とか健常者とか関係なく、みんなと一緒に活動できる、そういうスクールをやりたいなと思っています。



今行っている普及活動は、年間で大体2〜30ぐらいの体験会や講演会を行っています。体験会も含めてなんですけど、主に小中高の学校に行かせていただいています。今年も他府県になるんですけど、東京・鳥取・岐阜に行くことがもう決まっています。あとは商業施設とか、去年はBリーグのバスケットチームからイベントのお誘いをいただいて、ハーフタイムにお話させていただいたりとかさせていただいています。



この写真がそうなんですけど大阪府泉南市にある泉南ロングパークで、車いすバスケの3X3の大会を開催させていただいて、そのロングパークのアンバサダーをやっている、有名なYouTuberの方と一緒にコラボさせていただいて、YouTuberの力ってすごいなっていうのを身にしみて感じたイベントをさせていただきました。



この様に（上の写真の様に）大人の方々に向けにお話させていただいたりとか、あとは本当に小学校とか未就学児たちとかに説明させていただいたりとか、本当にワールドカップのアジア予選のときに前座で、Bリーグの選手とコラボさせていただいて、本当に5分ぐらいですけど、会場の皆さんに車いすバスケっていうものをどういうものかというのを見せることができました。

今後の活動予定

今後の活動として、天皇杯の2次予選があって、11月には近畿ブロック選抜として北九州に遠征に行きます。日本代表の活動としては、10月のアジアパラ競技大会が中国杭州であって、24年の1月にAOCという大会で、パリパラの出場権をかけた大会を戦います。それで勝てばパリパラに出場できるかが決まります。来年のパリに向けて、チームとしても頑張っていきたいなと思っています。

最後に・・・

私の活動や夢・目標の実現のために必要なものは、やっぱり金銭的にもそうなんですけど、物資とかトレーニング施設あとはコンディショニングとか、練習の施設もここ空いてるよとか、知っているところがあれば教えていただきたいなと思います。私を応援していただける方、一緒にパリへ行きましょう！



CDP アドバイザー



石塚 一輝 様

ユースフルワールド株式会社代表取締役



全編動画はこちら
からご視聴ください



経歴と主な取組みについて

私は CDP アドバイザーをさせていただいておりまして、皆さんとなかなかお話す時間や説明する時間がなかったので、今回は私自身のことも含めて、お話をさせていただきます。私自身が剣道をやってきまして、その剣道で得たことを、社会になって活かしたことで、今この活動におきまして剣道の学生さんを中心に就職の支援をしておりますので、その二つをお話させていただきたいと思います。

私は中学・高校は PL 学園というところで剣道やっておりまして、寮生活を過ごし、大学は中央大学で 10 年間、18 人部屋で寮生活をしながら、日本一を目指しながら剣道 1 本でやってきました。その結果高校日本一になり、中央大学を経てパナソニックに入社しました。パナソニックでは経理、企画を担当させていただきました。その後自身で会社を立ち上げて、人材育成、特に福祉と医療を中心としたコンサルの会社をしております。それと並行して、私自身が剣道でいろいろと得たことが多かったため、今やっている取り組みとして「剣道プロジェクト」という剣道を世の中に発信しながら、剣道のことをどんどん広めていながら、将来的には剣道を、プロといいますか剣道で飯を食っていけるような世界を作りたいということで活動しております。

体育会系アスリートが社会に出ていくために

アスリートの美点



そもそも社会人になって必要な能力ということで、大きくこの三つの能力を言われております。一つ目がアクション、二つ目がシンキング、三つ目が組織で動くということです。こういう話を講義で話すことがあるんですが、意外と体育会系の方は活動を通して、これらのスキルを結構経験しているかなとい

うふうに思います。しかし実際はそういう経験をしているんですけど、それを自分の中でしっかり見えていない、イメージができていないという方が多いだけかなというふうに思っています。私自身も経験したことです。やっぱり剣道だけではなくて部活動というのが社会に出てから、本当に会社とチーム（組織）が一緒だったなと感じました。大学時代はチームとしての「方向性の統一」と、「意識を高める」この 2 点をやってきました。その中で特に力を入れてやったのは、自己分析です。自分の能力を知ってるのと、知らないのでは全然パフォーマンスが違う。自分がチームとしての能力をどういうふうに応用できるか。これは、結果的に社会に出てから PDCA サイクルを回す中で自然とできるようになるんです。

また、私達の時代はどちらかと言えば自分で足を運んで、何かやるにも考えていたっていうのが、時代的には普通だったのが、今は良くも悪くもそういう時代ではないので、その経験というのが少し足りていないというか、少ない方が多いかなという風に感じております。その経験ということで、やはりコミュニケーションの取り方とか、先輩後輩に教えてもらったり教えるとか、場合によっては、今日練習ちょっと力を抜きたいんだったら、監督にどういうふう交渉したらいいとか、そういう経験が意外と社会で活きます。

3つの「意」

最後に私自身がいろいろな経験をしてきたことを含めて、いつも学生に話をする際に伝えてることをご紹介します。

3つの「意」・・・「熱意」「誠意」「創意」という話をしています。特に会社に入って忘れがちなこの真ん中の「誠意」を、学生にも伝えていきたいなというふうに感じております。社会生活がマンネリ化していきますと、何かありがたみを感じ無くなったり、気づかなかつたりとかそういうところも出てきます。あと、やっぱり目標ですね。ありがたい姿っていうことを学生の内からしっかり考えていた方が、将来的に本当に得だよっていうことを伝えてます。ですので、夢・目標・ビジョンを、学生のとき、僕もできていなかったんですけど、やっぱり持つてやるのとやらないのっていうのは、やっぱり自分のモチベーションもそうですし、将来的に目標が達成できる・できない、そういうことを含めて、すごい影響するかなというふうに思ってます。



センコーグループホールディングス（株）



全編動画はこちら
からご視聴ください



坂田氏の経歴と主な取組みについて

今日はセンコーグループで策定をしております「文化スポーツ推進プラン」という、当社所属の実業団選手に向けて実施をしております当プランについてご紹介いたします。

そしてもう一つ、キャリアデザイン研修、これはアスリート向けのキャリア研修です。これらの内容をご紹介させていただきたいと思っております。

私は坂田賢治と申します。仕事の領域は、組織とスポーツ、ここを掛け合わせたような領域でいろいろと仕事をさせていただいております。センコーグループホールディングスでお世話になりながら、会社に副業申請をしまして、現在スポーツ庁が推し進めておりますアスリートキャリアコーディネーターを国として育成をしようというプロジェクトがあるんですが、そちらのコーディネーターを育成する養成するプログラムでの講師をさせていただいたりしております。

文化スポーツ推進プランについて

ではまずは昨年度から始まった中期経営計画に沿って5ヶ年の計画で文化スポーツ推進プランというのを掲げましたのでそのプランをご紹介させていただきます。

当プランは中期計画に沿って文化スポーツ、これをどうやって進めていくのかというところを定めた指針のようなものです。なぜこの様なプランを掲げたかということですが、グループビジョンとしまして、未来潮流を作る企業グループになるということを掲げております。これはAIやロボットが勝手に実現してくれるものではなく、やっぱり頑丈な土台っていうのが必要ということで、その土台は何かというと、やっぱり最後は人だなということで、その人が心身ともに健康で活力に満ちているこういった社員が多く存在するというのが、土台として必要だということを考えました。この心身ともに健康な従業員を育てる方法には、いろんなやり方があると思うんですけど、我々は文化スポーツ推進担当でございますので、それを従業員が、文化スポーツというものを心の底から楽しむということを基軸として、文化やスポーツを楽しんでもらうと、心身ともに活力、生きがいややりがいが見えてくるし、そういったものが、仕事のパフォーマンスに反映される、と考えています。その中で、人の集まりである組織のパフォーマンスも上がっていくことを目指しています。やはり文化スポーツを楽しむプロセスは1人でなかなかしないのですね。やっぱり人が集まって応援したりして、そこで繋がっていく。そして組織のパフォーマンス上がっていく。そして最後はグループビジョンを達成していく。

この様な流れを作っていくということです。

キャリアデザイン研修について

ここからはキャリアデザイン研修についてご紹介します。皆様今日キャリアに関わるところでテーマでご興味お持ちだと思しますので、実際にどんな研修をしているかというところをご紹介をさせていただきます。まずアスリートのキャリアって何かというところや、どうやって考えるのかということをお伝えした後で、実際に個人ワークでどんな期待がされているのかを理解していくことから始めます。ありがたい選手像や社会人像みたを描く取組みです。

最近の研究でも明らかになっている通り、スポーツだけに一意専心することがアスリートとしてのパフォーマンスを高めるのではなく、他のことにも注力をして、同じぐらい頑張っている選手の方が、結果的にパフォーマンスが高まっているんです。そして、そもそもキャリアに唯一の正解なんてなく、「あなた次第ですよ」ということをお伝えしています。そのためには、「キャリアオーナーシップ」というのがすごく大事なんです。自分で情報を集めてその情報をもとに自分で考えて自分で決めて自分で動く。決して監督やコーチ、会社任せにしないでくださいねみたいなことを最初に強くお伝えをしてます。実は私も意外だったんですけども、研修終わって何が印象に残ってますかみたいなことを聞くと、このキャリアオーナーシップが強く印象に残ってるって答える選手が多いです。実際聞いてみるとやっぱりこれまで優秀な成績を残しているアスリートなので、誤解を恐れずに言うと、進路が勝手に決まってるって言うたらおかしいですけど周りの人が進路を決めてくれると、自分でキャリアの選択をしたというのがあまりない選手が多いというのも実態として聞くことができました。キャリアって自分で考えて自分で決めていいんだみたいな感想を口にする選手がいたっていうのが驚きの発見でしたね。

最後に・・・

今日はこのような機会いただきまして本当にありがとうございました。世の中にはこういった文化スポーツ推進担当という部署を置いて文化スポーツを推進している会社もあるんだなということを知っていただけたらありがたいです。今後もセンコーグループの実業団の選手が、いろんな場面で報道等に出てくるかと思いますがぜひ応援していただけるとありがたいです。今日はありがとうございました。



Closing address

マグチグループ株式会社 代表取締役 VCOO



尾形 哲



全編動画はこちら
から視聴ください



本日3名の方にプレゼンをしていただきました。まず車いすバスケット日本代表強化指定選手ということで、網本さんにいいお話をいただきましてありがとうございます。網本さんは、本日で参加いただけてます協同組合ビジネスナビの宮川さんのご紹介でございまして、またその間に今日お越しいただいている庄司さんがいろいろと段取りしていたということで感謝申し上げます。また二つ目には、石塚アドバイザーに剣道人材ということでお話を頂戴しました。また、三つ目にセンコーグループホールディングス坂田様より文化スポーツ推進ということでお話を頂戴しました。

皆さん素晴らしいお話を聞かせていただいてこの短時間でいろんなことを学ばせていただいたと思っております。どうもありがとうございました。

まず石塚アドバイザーのお話について少し触れたいと思います。剣道の人材というテーマで、石塚アドバイザー、PL学園から中央大学、そしてパナソニックという剣道の道を歩んでこられたということで、素晴らしい実績を持たれております。その中で最後の方にお話をまとめていただく際にもありました、儀礼ですね。こういった儀礼に始まって儀礼に終わるというところが剣道の素晴らしいところであるというふうに我々も認識をしております。もう一つ私がこのお話を聞く中で感じたのは、「守破離」という言葉が剣道でよく言われたりします。守破離を正しくいろいろと紐解いてお話いただいたなと感じております。守るということで変えてはならないものがあって、「破」ということでこれは「変えるべきこと」で、「離」離れるということで、これがまさしく自立ということだというふうに思い、自分で考えて自分で行動するということだと石塚さんもおっしゃっておられましたけど、こういう「守破離」を、わかりやすく説明いただいたお話だったなというふうに感じました。最後に言われた「熱意、誠意、創意」この三つの「意」というものを、常に考える必要がある。これは仕事の上でも全くその通りだというふうに感じます。貴重なお話をどうもありがとうございました。

そしてセンコーグループホールディングス坂田様ありがとうございます。文化スポーツ推進ということで、非常にわかりやすいご説明をいただくとともに、冷静かつ実現性の高いプランを立てられてるなということで非常に勉強になり、我々このキャリアデザインプロジェクトも学ぶべきところがたくさんあったなというふうに思いました。心身ともに健康で活力に満ちた社員という素晴らしいお言葉もいただきました。ぜひ我々もコラボできるところ、それから参加できるところ、また勉強させて

いただけたところあれば、お声がけいただいてこのキャリアデザインプロジェクトと一緒に何か役に立てるところあればありがたいなというふうに思いますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

そして車いすバスケットの日本代表強化指定選手網本様ということで、非常に素晴らしいお話でいろいろ考えさせられる点がありました。8大会連覇ということは素晴らしく、その中でMVPを取られ、また海外にも自ら行かれ、本当に素晴らしい勇気と活動力だなというふうに思います。多様性という言葉がありましたが、まさしく「Unlimited」に向かっているなというふうに感じます。先ほどの「アンリミテッドスポーツフェスティバル」の話がありますが、この大会も実は健常者と、障害者が「アンリミテッド」で大会に参加するというところで、数年前から開催されて、コロナの期間中となってしまったけれども、また復活して今回復活第1回目ということで開催されます。数年前から、法定雇用率を上げていく国の政策の中で、本当にこの単純な法定雇用率をアップするという具体性のない取り組みの中でいいのかなという疑問があります。法定雇用率が上がるから障害者の方々を採用しなければならない感覚に陥って、ペナルティをなくそうということで採用している部分が増えてきてるんじゃないかなと、これは弊社だけではなくて世の中の動きとしてそういう部分が聞かれるところが多いというふうに思っております。でも本来そうではなく、先ほどの網本さんのお話の中にもあったように、障害者と健常者の境目ってどこにあるのということなんですね。それが法定雇用率だけの問題で採用していくのかということではなく、障害者と言われてる方々でも我々よりもずっと長けてるところがたくさんあります。この境目は誰もはっきりとは持ってない部分だと思います。要は人間誰しも強い部分と、弱い部分と両方があって、弱い部分を障害というならば誰しもが持ってるこの障害部分をカバーしていく仕組みを作らなければならない。でも網本さんが言われたように、それを強弱というふうに分けるならば、強いところはより強くカバーリングをして、労働力に持っていくあるいは労働力確保の中の一つとして活用できます。法定雇用率だけがクローズアップされてるようなところに少し疑問を感じ、今日の網本さんのお話も聞きながら、その多様性 Unlimitedの部分で境目をなしに強い弱いの部分で言うなら弱いところを補うような施策の中で一緒に何かが捉えてきたらなというふうに感じて聞かせていただきました。

先ほどの網本選手、パリパラに出られるということを目指されておりますので、ぜひ応援をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、昨日の高校野球に始まって、世界陸上、それからラグビーワールドカップ、プロ野球の日本シリーズいろんな楽しみあるスポーツが待っております。ぜひそういったスポーツによって、感動いただき、元気をいただき、勇気をいただき、賛同受入企業の皆様とともに勉強しながら、真の労働力問題に取り組んでまいりたいというふうに思いますので、今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

Company interview

株式会社宮田運輸 代表取締役

宮田 博文様

CDP 参画のきっかけ

マグチグループ株式会社代表取締役 VCOO 尾形社長の想いや志、考え方に非常に共感をしました。それは私達宮田運輸が、理念にも掲げていることでもあり、人が人として成長したり、幸せになっていくことが最も大切なことであると感じています。

なので、就職が難しいって言われてる人たちも含めて、社会の受け皿、という感覚で私達も人を大切にしているという考え方が根底にあるものですから、その考え方と CDP がやろうとされていることが合致し、共感・共鳴しあったというのが、参画を

アスリート雇用で大事にしていること

私たちも、地元高槻の女子プロサッカーチームに所属している選手を働く場の提供ということでサポートするといった経験があります。当然一流のアスリートであれば、そのスポーツだけをやっておれば良いことにもなると思うんですけど、大半の選手は、引退して食べていけなくちゃいけないということを現実的に考えないといけないんですよね。やっぱり子供たちの夢というんですかね、スポーツで未来を開いていく、そういうスポーツ選手が一生懸命取り組んでいける環境をみんなでやっぱり作っていかないといけない。

その「みんなで作っていかないといけない」部分を、私達は働く場を提供するということが非常に役割として大事じゃないかなと思っております。その上で、アスリートが一生懸命やるっていうのがやっぱり大前提で、中途半端にどっちもっていうことじゃなくて、本当に集中して、一生懸命やる人のサポートだったり、お手伝いをしていこうと考えております。

プロジェクトに期待すること

キャリアデザインプロジェクトは非常に良いプロジェクトだというふうに私も実感しております。

企業側も、そういうスポーツを真剣に取り組んだアスリートが、会社の中に入ってきた時に、私達がサポートするっていう側だけじゃなくて、入ってもらうことでその（アスリートの）純粋な心が会社内に伝播していくと思うんですね。

挨拶一つとってもそうですね。だからお互いに、より良い関係というものを構築できるんだっていうことを受け入れ側の社員一同自覚する必要がありますね。実際に実績を作るのはなかなか

か難しいかもわかりませんが、より良いことをやろうと思ったら、時間はかかります。

私達のやっている取り組みもそうですけども、地道に心ある企業が結集して一生懸命取り組んでいき、一人の人間として真剣に考えることが大切ですね。CDP の取り組みが広がれば、未来のこの国の子供たちの夢が、もっと現実的に広がっていくと思います。

親が子供に、野球を続けても将来食えないからやめときなさいとかではなく、そのスポーツを一生懸命やることで、将来の仕事に本当に活かされるんだと思えるように、心ある企業が連携をとって、作っていかなくてはいいんじゃないかなと思っています。（CDP は）まだスタートしたばかりだと思えますし、これからどんどん日本国内にとどまらず、世界に広がっていくようなプロジェクトになることを改めて熱く熱く期待をしておりますので、一緒に活動していけたらなと思っています。



【子どもミュージアム】

ある死亡事故をきっかけに、子ども達の描く絵を通して一件でも交通事故を減らしたいとの想いで始まった「子どもミュージアム」の活動

CDP アスリートのみなさんへ

キャリアデザインプロジェクトは、アスリートの自主性を大切にしながら、ご自身のセカンドキャリアを考えるきっかけを作っていきます。どのような競技にも「引退」のときは必ず訪れます。もしかしたらその後の人生の方が長いかもしれません。長い間一つのことに打ち込んできた経験は必ずセカンドキャリアに活きるものです。自分が引退後どんな道を歩むのか、このことを現役のときに少しでも向き合うことができるのであれば、今のスポーツにもっともっと打ち込むことができるでしょう。キャリアデザインプロジェクトでは、アスリートのセカンドキャリアに関して真剣に考えている企業の集合体です。セカンドキャリアから目をそらすのではなく、しっかりとした考えを持つことで今の競技人生をより有意義なものにできると信じています。

お問い合わせ

キャリアデザインプロジェクト事務局

☎ 0798-56-7900

✉ info@careerdesignproject.com

公式サイト



2023 アンリミテッドスポーツフェスティバルがヤンマースタジアム長居で開催！



9月15日(金)ヤンマースタジアム長居で2023 アンリミテッドスポーツフェスティバルが開催されました。
「制限なし、絆あり!!」をコンセプトに、障がい者・健常者・子ども・成人が同じ競技に参加し、日頃の成果を発揮されていました！競技は、トラック競技〔100m(立位・車いす) / 1500m(立位・車いす) / アンリミリレー4x100m) 跳躍(走幅跳) 投てき競技〔やり投げ(立位・座位)〕 ボッチャ大会 eスポーツ大会と、様々な競技があり、ダンノマンはやり投げに出場しました！
アンリミテッドスポーツフェスティバルならではの競技で、「パン食い競争」や、またeスポーツ競技「ぷよぷよ」「ストリートファイター」もあり、世代・障がいの有無に捉われない競技に参加選手・観客も盛り上がっていました。
来年には神戸(ユニバー記念競技場)で2024世界パラ陸上競技選手権大会も開催されます。
2023アンリミテッドスポーツフェスティバルは、障がい者も健常者も、子どもも大人も競技の壁を作らない、まさに「アンリミテッド」な大会でした！



第65回全日本実業団相撲選手権大会に CDP PJ メンバー岩見選手が出場！



9月24日(日)に第65回全日本実業団相撲選手権大会が堺市大浜公園相撲場で開催されました！
本大会にマグチグループ株式会社相撲部が出場しました！
団体の部は1部と2部があるのですが、団体1部は実業団日本最強を決める決戦の場です。その団体1部に出場したマグチグループ相撲部は準優勝を果たしました！
個人戦ではCDP事務局の一員である岩見剛也さんが見事3位に入賞されました！



普段はマグチグループ株式会社人財戦略室のサブマネージャーとして採用戦略の一翼を担いながら、CDPの活動にも事務局の一員として積極的に活動をしていただきながら、相撲の稽古に励み、努力を怠らず個人戦3位に輝いた岩見さん。
また団体でも日本2位に輝いたマグチグループ株式会社相撲部に盛大な拍手をお送りします！
日本一の高みを目指して日々努力されているマグチグループ株式会社相撲部の次回の大会は、ぜひ賛同受入企業のご支援を現地でお送りしましょう！

賛同受入企業

キャリアデザインプロジェクトは、様々な分野で活躍している賛同受入企業によって支えられています。



REALGATE

IRIS CHITOSE
アイリスチトセ

HYPERION

SLS株式会社

RELO CLUB

MINATA TRADING

2 CRABBY'S HOME

EcoRing

リサイクルジャパン

なわて
ケアサービス

QUALITY FIRST
きかもと

e エントリー

センコーグループ

サカイ引越センター

越村商店

SS SPEED&SAFETY



OUR HOUSE inc.

DUKS

NECネクスサソリューションズ

G+YOU プランニング



美粧館
理髪館

Golf Support

OSS
尾崎スイング



日科運送株式会社

よるこびがつく世界へ
KIRIN